

春季連休中の行仙宿来宿者の対応と作業 行仙岳北側斜面及び捲道の補修等

◇実施日：平成27年5月3日（日）

◇参加者：川島 功、青木宏充、金光康資、野原龍夫（連泊組）、

沖崎吉信、湯川一郎（日帰り）

計6名。

5月3日 天候：曇り後霧雨

前日、沖崎さんから管理棟屋根ペンキ塗替えの塗料不足分を預かり行仙宿へ向かった。補給路登山口に到着すると笠捨山の道祖神の補修に來られた長野の速渡さん一家4人が、補給路赤階段の前で準備をされていた。

速渡さん一家の後を追い行仙宿に到着すると、青木さんが出迎えてくれた。あいにくの空模様でペンキ塗替えができないため、川島・金光さんは、行仙岳北側斜面の段差補修箇所の確認に向かっているとき、腹ごしらえをしてから行仙岳に向かった。

捲道に入ると、補修用の新木杭2本が置いてあり、川島さんと金光さんが、北側斜面最下部（怒田宿跡側）で新木杭約10本を打ち込みの補修作業を終え登って來られた。

そこへ山頂から野原さんが下って來られた。金光さんと野原さんは、山口県から來られているとのこと。金光さんは、「防長山野へのいざない第4集」を刊行されたところで、前日、沖崎さん宅で本を拝見し、その内容の深さに驚いたところでした。また、野原さんは、雨中进行をする山伏の姿を描いた絵画（防府市美術展入選作品）を行仙宿に寄贈してくださった方で、お二人は、新宮山

彦ぐるーぶと長年のお付き合いと伺いました。

薪道分岐下近くから四人交代で山頂への登山路を大ハンマーで、霜柱等で浮いた木杭を打ちながら補修して進んだ。

川島さんによれば、山頂付近には三本のコシアブラの木があるとのこと、その様子を見たところ、高さ3〜4Mのところには新芽がたくさん出ていた。「新芽を天ぷらにすれば美味しいのだが・・・」、「現在、電波塔工事用の梯子を借りれば」ということに相成り、川島さんが梯子に上り、新芽を摘み、帽子1杯分程収穫した。

一旦、捲道分岐まで下り、捲道の補修を行いながら行仙宿に戻った。分岐の石柱道標は、昨春応急処置で起こしが再度倒伏しており、再度対策を練り直す必要がある。

当初、小雨で事前調査として、道具は大ハンマーのみの持参であったので、斜面の土を削るトンガ等欲しいところであったが、大ハンマーで斜面を叩き土入れが出來た。

行仙宿に戻ると沖崎さんが食料品等を持ち上げてこられたところであった。川島さんが「コシアブラは取り立てなので、夕食ではなく今から天ぷらにして食べよう!」、早速、金光さんと野原さんが手慣れた手捌きで揚げてくださり、投宿を決められた登山者2名の方にも食べていただいた。私はコシアブラを食べたのが初めてだが、揚げたての新芽は非常に美味しかった。皆さん程よくアルコールも入り、楽しい昼食となりました。

昼食後小雨で作業中止を決めていたが、霧雨程度なので川島さんが、継ノ窟下降路の上の奥駈道に岩盤からずり落ち張り出した樹木の伐採を行うため、再度、行仙岳に向かうということから、

これに私もチェーンソーを担ぎお供しました。

登山路に張り出した樹木でザックが引つ掛かる箇所と行仙岳北面のブナの根が浮いて歩行支障になる箇所をチェーンソーで切断し、本日の作業を終了。行仙宿に戻り、休憩後下山しました。

行動タイム

新宮 5：57→7：26 補給路 7：30→8：20 行仙宿 8：45→9：20
行仙岳 10：30→10：55 行仙宿（昼食） 13：00→13：35 行仙岳 14：00→14：30 行仙宿 15：40→16：10 補給路 16：15→17：38 新宮
（記 湯川）



コシアブラ天麩羅で昼食懇談



ズリ落ちて大きい荷の支障となる立木